

特集 / 70歳まで働く

撮影：今井康一



マンション管理人

人気度 ★★★★★
採用難易度 ★★★★★

月収 15万~20万円

必要な能力 コミュニケーション能力、柔軟性など

主な採用ルート ハローワークなどから応募

管理人室にずっと座っているイメージがあるが、実際は清掃、設備点検、苦情対応などで忙しい

アドバンテック営業統括部の宮崎正太郎も「設立18年の後発メーカーであるわれわれにとって、任田さんの人脈や商品知識は大きな力になる」と、その貢献度を高く評価する。任田さんはパナソニックグループの顧問サービスに登録。同社がアドバンテックと結ぶコンサルティング契約に基づき、月4~5日の頻度で働く。登録者は上場企業の管理職以上経験者で、特定業界での人脈や技能を有する人が多く、採用のハードルは高い。

だが、その分、月収は20万~50万円程度(複数企業を掛け持した場合を含む)と、かなり高額。特に工場の歩留まり改善などは、依頼企業と関連性の強い業界で、工場の生産管理などを行ってきた経験が必要のため、高額になる傾向だという。パナソニックキャリアカンパニーの渡辺尚ブレイデントは、「昨年の10月に事業を立ち上げ、まだ宣伝広告なども行っていないが、企業からの引き合いは強い。このプロジェクトで、ピンポイントでシニアの経験や能力を活用したいと企業は考えている」と語る。採用されるには、「50代後半以降も、人脈や技能をさび付かせないよう維持することが重要となる。

2 マンション管理人

競争倍率50倍もある狭き門

ハローワークからでも応募できるうえ、住人との相性などがよければ70歳以降まで長く働けるマンション管理人は、シニアの再就職先として最も人気の仕事の一つ。競争倍率が50倍になることもある「狭き門」だ。

「管理人室にずっと座っている印象もあるが、実際には勤勉さが求められる仕事。内容は清掃や設備の点検、住人からの苦情への対処、運送業者への対応など多岐にわたる。住み込み形式で「シャトレーゼ幡ヶ谷」に38年間勤務するベテランの樋口峰子さん(71)は、「じつと座っていることはほほえない。つねに出たり入ったりと忙しい」と語る。玄関先やゴミ置き場だけでなく、全フロアを毎日清掃し、人目につかない電気メーターや配管、エレベーターの溝などもくまなくふきんがけする。三越の企画畑などを経て、昨年「ウイスタリヤ元麻布」の管理人となった加藤一也さん(58)は、月々土曜日の9時から17時まで通勤形式で勤務する。加藤さんの持論は「住人の立場になって、仕事を見つけ出していく」。清掃業者が手掛けないためホコリまみれになっていたロビーの照明器具は、100個すべてを磨き

上げ、接触不良を確認。生ゴミがおいがちなゴミ置き場は、毎日2時間置きにチェックし、ガムテープで袋の口を閉めにおいの元を絶つなど、かゆい所に手の届く仕事ぶりだ。管理人はマンション側から委託された管理専門会社と派遣契約を結ぶのが一般的な形式。ハローワークや新聞の人材募集欄、各管理会社のホームページなどで情報を得て、応募する。採用試験としては履歴書などによる書類審査や面接が行われ、管理会社によっては簡単な筆記試験が実施されるケースもある。

求められるのはコミュニケーション能力や柔軟性。「スマートフォンに興味があるなど、新しい知識に貪欲な人は歓迎」(マンション管理会社大手・日本ハウズイングの長岡博秀・人事総務部次長)と、好奇心旺盛な人も評価されるようだ。また、「履歴書や面接では、ウォーキングが好き、家庭菜園が趣味など、健康に気を配っていることをアピールすることが効果的」と「目指せ!マンション管理員」の著書があるマンション管理士・日下部理絵さんは話す。「あなたのおかげでマンションの価値が上がります」。前出の加藤さんは、住民からかけられた言葉を忘れられないという。普段は目立たないが、住人にとって大きな存在となる仕事だ。